

新しい農業の歩み

マレイン酸ヒドライド（M・H）による

クックグラス（しばむぎ）の駆除

最近の新農薬の中でM・H（マレイン酸

ヒドライド）は、馬鈴薯、玉葱などの貯蔵

野菜や、種苗の発芽抑制剤として、または

タバコやトマトの腋芽防止、生垣の生長抑

制剤として脚光を浴びているが、これは元

来2・4・Dと同様殺草剤として研究された

もので、特に2・4・Dと異なる点は、いね

科植物に対して殺草効果が著しく、一部で

は芝生の生長抑制または蔓延防止にも利用

されつあり、今後農業上に種々の貢献が

期待されているものである。

牧草を扱うものにとつて興味あることは

M・Hによるクックグラスの駆除である。

クックグラスはしばむぎといい、多年生の

いね科植物であるが、強い地下茎を持ち、

よく不良土壤特に乾燥地で旺盛な生育をな

し、ために乾燥不良地の永年放牧草として

も利用されているものである。しかしこれ

が一度熟園に侵入すると、地下茎と豊産な

種子とで忽ち蔓延し、しかも機械的な除草

介な存在となつてゐる。特に牧草地のごと

き多年放置しまたは除草管理の困難な場合

は蔓延著しく、他の優良牧草を圧倒し始末に負えない。

我が国でも輸入牧草に混じて各地に拡り、野草化しつつあり厄介なものであるが、米国でも同様と見え、ワイスコーン大学で、ケネス・ビーブックホルツ氏が一九五〇年以来M・Hによるクックグラスの駆除を試み、それが可能であることを報告しており、今後かかる分野にM・Hが利用されるのではないかと思われる所以で、ここに紹介したいと思う。

ブックホルツ氏は自己の試験の結果について左の通り述べている。

「私はM・Hがクックグラスの駆除に極めて有効なものであると信ずる、われわれの実験ではM・Hが適当に利用されるときは、その年のクックグラスの生長を極度に抑制し、蔓延を防止することが出来、しかも土壤には何ら悪影響を残さないものである。」

同氏によるとM・Hで処理する適期は、クックグラスが約四インチ乃至それ以上に生長した時がよく、この時期にM・Hを撒布すると生長は顕著に抑制される。撒布の量はM・H一四〇（M・Hの有効成分四〇

%含有）を一〇ポンド、これを四〇ガロン（約八斗）の水に溶かし、一エーカー（約四反）に撒布した。爾後四~八日以内にこの圃場を鋤きおこしたが、クックグラスの大部は明らかに枯死するにいたつた。耕鋤を行ひ、それが終り次第、所要の作物が播種されて差支えない。これまでに菜豆、大豆、トモロコシ、ソルゴウ、ソバ、ティーバルビート、ヒマワリについて調査したが、いずれも発芽良好で、M・Hによる被害は

（中野記）

なんら認められなかつたといわれる。M・Hが世に出たのは一九四七年でまだ日浅く、現在のところ専ら発芽抑制剤としての利用研究が多いが、前記のごく特にいね科に対する殺草効果が高いことは注目すべきことであり、クックグラスのみならず、レッドトップ（コヌカガサ）、イヌビニ、ヒメシバなどの從来駆除の極めて面倒ないね科雜草退治に今後活用してみたいものである。